

2017（平成29）年度 東北福祉大学通信教育部 スクーリング・アンケート自由記述（抜粋）

紙面の関係でごく一部のみしか掲載できませんでした。

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

（目次）	共通基礎科目・その他の選択科目	p. 1
	社会福祉士指定科目	p. 5
	精神保健福祉士指定科目	p. 10
	心理系専門科目	p. 12
	教職系科目・幼保特例講座科目	p. 16
	オンデマンド・スクーリング開講科目	p. 16

共通基礎科目・その他の選択科目

●ボランティア論

- ・自分の考えていたボランティアは簡単に考えすぎていることがわかりました。ニーズによって支援することは公的サービスだけではないこと、役割についてなど学ぶことができました。ボランティアについての実態も知ることができ、考えさせられました。

●科学的な見方・考え方

- ・レポート作成にとっても役立つという感想を見たので受講しました。レポートの構成など、とてもわかりやすく、勉強だけでなく日常でも反映できる事柄が沢山ある濃い内容だったので、受講してよかったです。大学2年目で受講しましたが、レポートの基礎を丁寧に教えて頂けるので早めに受講すればよかったです。

●基礎演習

- ・一つの資料の書き方もいろいろあるんだなと感じられた。今までみんなと話をする機会がなかったので、とても良いコミュニケーションの時間でした。

●情報処理Ⅰ

- ・エクセルの講義では、なぜこのような数式になるかということも含めて、とても丁寧に説明いただきわかりやすかった。

●福祉と経済

- ・福祉と経済それぞれを細かく分析することで、お互いが密接にかかわりあっていることがよくわかりました。

●人間と教育

- ・仕事にもつながる内容でとても学びになりました。教育することも、されることも一生大切にこれからの生活に活用させていただきます。

●政治学の基礎

- ・講義の区切りごとに、リアクションペーパーへの記述があったことで、考えをまとめることができよかったです。また、グループワークで他者の意見を聞くことによって考えの幅が深まり勉強になりました。

●人権と福祉

- ・人権と福祉を受講する前は難しいテーマ・法律について学習するのではないかと不安でしたが、講義を受けてとてもわかりやすく興味深く聴くことができました。福祉の仕事に就いているため、視野が狭くなり固定概念に縛られている自分に気づくことができました。

●社会福祉学入門

- ・社会福祉の概念や理念から始まり、今後どのような視点をもってソーシャルワークを学んでいけばよいのか明確な講義内容で、これからの学習にも身が入る思いでした。

●コミュニケーション英語

- ・グループ内で英語を使って会話の練習を行い、とても楽しく学ぶことができました。日本と他国の文化の違いについて学ぶことができ、とても満足した楽しい授業でした。

●スポーツの心理学

- ・今回、自分の学習課題でもあったチームワーク、リーダーシップのとり方などについて、多くの学びを得た。先生の授業は興味深いことだらけで、自分の体験談も交えながらの講義には聞き入ってしまう場面が何度もありました。自信を高める方法やチームの作り方など考え、この学びを職場でいかせるようにしたいと思った。

●特講（子どもの貧困）

- ・自宅のそばにも自立援助ホームがあることを最近知りました。存在もあまり知られずどのような生活をしているのか、わかりませんでした。そこで生活している子どもたちの困難

を講義で知り、子を持つ親として胸が苦しくなりました。自分に何ができるか考えさせられる内容で知識が深まりました。

●知的障害者福祉論

- ・講義を通して、自分自身が知的障害者に対する知識や意識がほとんどなかったことに気づかされました。個別にある「障害者」を一つの枠で見えていました。今回知的障害者に対する知識、法律、現状など学んだことで、考え方や自分の取り組む意識が変わりました。

●発達障害者の理解と支援

- ・ビデオ鑑賞や疑似体験したことで、障害をもつということは生きにくいものだということが本当に良く理解できた。障害を、その子どものもっている個性ととらえ、成長とともに寄り添い、苦手なところをさりげなくサポートできる自分になれたらと思う。この学びを活かし努力したい。

●ケアマネジメント論

- ・具体例や参考事例を聞くことで考えやすかった。レポートにまとめる上でも役に立ち、今後の現場にいかせる視点が学べました。今までの自分の視点が限定的だったと気づかれました。

●NPO論

- ・NPOで働いているが、自分自身知らないことが多く驚いています。今後はNPOと社会福祉法人の違いをより理解し、これからの活動についてどちらがふさわしいか考えられるようにしていきたい。

●リハビリテーション論

- ・テキストを事前に読んでおいたので、スムーズに講義内容が理解できよかったです。先生の具体的でわかりやすい話を聞くことで、テキストだけでは知ることのできない部分を知ることができました。特に精神科専門のOTである見方や考え方にふれた点で貴重な話に興味を持ちました。

●家族法

- ・法律を扱った科目はいくつか受けましたが、選択的夫婦別姓や人口生殖、代理出産などはこの科目で初めて学習し考えることができました。自分なりに福祉と法とのかかわりや考え方を深めることができる講義でした。

●**社会福祉法制**

- ・幅広い内容をわかりやすく講義していただいたので、楽しく学ぶことができました。どの分野においても法律の改正があり、一つの分野だけを理解するのではなく、他分野の法改正なども把握する視点が重要であることを学びました。

●**介護技術**

- ・ボディメカニズムの基本原則を学んだ上で介護をしていくことで、利用者の方にとって、安全で安心感のある介護につなげることができるということを知り大変勉強になりました。

●**特講・社会福祉学10（スクール・ソーシャルワーク論）**

- ・事例を踏まえつつ、必要な対応や連携の大切さ、それによってどのように変化していくのかがわかりました。まだ、配置の少ない職種ではありますが、ソーシャルワークが前提であり、学校や子ども、保護者のみの問題だけではないことがよくわかりました。

●**特講・社会福祉学13（福祉産業論）**

- ・介護の産業や高齢者関係の産業を1つ1つ知っていても、まとめて学ぶ機会がなく、福祉として学ぶことで社会福祉の現状や介護問題など将来に必要なことが鮮明になり、自分に何ができるのか考えさせられました。

社会福祉士指定科目

●社会福祉原論（職業指導も含む）

- ・様々な文献を紹介していただいた点、聖書など文学として興味を持っていたものを教材としていて、楽しく興味深く聞けました。今まで受けてきた他の授業の先生方の講義内容と一致する点をいくつか見つか理解が深まりました。

●地域福祉論

- ・地域福祉とは何となくこのようなことなのかなと思っていましたが、法的な裏づけがあり、推進実行されていかなければならないということがよく理解できました。

●社会保障論

- ・社会保障は自分たちの生活に最も大きく関わっており、実に身近なものであるにも関わらず細かな制度で、複雑でわかりづらいという考えが自分の中に知らず知らず定着していて避けがちでしたが、今回受講したことにより制度を以前より理解することができたと同時に、自分ごととして捉えられるようになり、社会保障に対する興味関心へのスイッチが入りました。この先も理解を深めていきたいと思います。ありがとうございました。受講して良かったです。

●公的扶助論

- ・教科書だけでは理解できなかったことが、スクーリングでとても分かりやすく説明され、公的扶助の目的、セーフティネットの意味するものがわかりました。公的扶助を必要としている人、援助する人のあり方、どう支援していくべきなのかなど他の科目と関連付けて学びを深めたいです。

●福祉法学

- ・難しい法律について、身近な事例に当てはめて分かりやすく解説していただき、よく理解できました。私たちの生活に密接に関わっている法律をこれから意識していきたいです。

●福祉社会学

- ・福祉社会学は難しい学問だと思っていたが、先生の熱意ある講義に引き付けられ「目の前にいる人ではなく、その視線から隠れている人を見ることが、それが社会福祉の原点である」と言う言葉に、どのようにしたら良いのかということが分かり、実践していこうと思いました。

●福祉心理学

- ・福祉心理学の受講前は、福祉に対しての心理学と思っていましたが、人の一生（ライフサイクル）全てにおいて、個人の幸せとQOLの向上に対しての新しい学問だということを知りました。また学ぶ前に、心理学概論、社会心理学、心理アセスメントを受講していたので、3科目の復習にもなり効果がありました。

●医学一般

- ・医学的なことには興味があったが、専門的なところまでは分からず授業を受けたことで確かな知識として学ぶことができ楽しい時間でした。

●福祉行財政と福祉計画（福祉計画法）

- ・平成29年度版の新しいデータを用いながらの講義で、実践につなげやすく、現場でも活用できると思うので良かったと思います。専門用語も理解しやすいように説明していたので頭に入ってきやすかったです。

●障害者福祉論

- ・障害を通じて感じた先生自身の意見や他機関からのゲストスピーカーの先生のお話がとても興味深かった。板書だけでなく映像も授業に取り入れられていて、文面だけでは想像することができない障害がある方の実情を知ることができた。実際の補装具や障害者手帳なども拝見できたのでとても良い経験になった。

●保健医療サービス論

- ・身近な医療保険のことであったため興味深く、先生も分かりやすく具体的な事例を挙げて話していただいたので良かった。

●社会福祉援助技術総論

- ・社会福祉士という相談援助を行う専門職について、その必要性や基盤となる背景について改めて学ぶことができた点が良かった。自己学習だけでは途中で挫折してしまいそうだったため、要点がポイントごとにまとめられておりわかりやすかった。

●社会福祉援助技術論A

- ・知識を得るための講義というよりも、先生自らの体験を踏まえたソーシャルワーカーの覚悟と心構えを学んだ二日間となりました。テキストを読むだけでは分からなかった福祉の実態から目を背けないこと、自分の幸せ以上に要支援者の幸せを目的としなければならないことなど、自分自身の意識の変革になりました。

●社会福祉援助技術論B

- ・現場で働いているからこそ、対人援助で関わった人々の生の声を通し、そこから学び感じ、深く考えさせられた時間だった。これからソーシャルワークの現場に出て行く心構えができたのですごく貴重な授業でした。

●社会調査の基礎（社会福祉援助技術論Ⅱ）

- ・ソーシャルワークの視点として、どのような意味を持つのかデータを基に根拠を持つこと、実証することの大切さを学ぶことができました。職場においても、計画・実施・自己評価をより専門性を高めていけるよう、取り組みたいと思いました。

●福祉経営論（福祉施設管理論）

- ・最近転職で小規模な事務局を運営することになり、組織運営の方法について悩んでいたの
で、とても参考になりました。

●高齢者福祉論

- ・地域の中で高齢者を支えていくということが、具体的にどうしたことなのかを理解することができました。この20年位の間で、高齢者福祉のあり方が大きく変化したこと、それが実践の中で生まれてきたということがよくわかりました。様々な困難があっても何かを動かすのは人の力なのだと感じました。

●介護概論

- ・先生の講義が聞き取りやすくとてもよかったです。高齢者について改めて一人の人として接していくことを再認識させられました。その人の人生に踏み込んで介護に携わっていくことに、もう一度取り組んでいきたいと決意できました。最後の看取りについてもターミナルケアの大切さを知ることができ、今までの学習と違った意味で理解が深まりました。

●児童（・家庭）福祉論

- ・子どもの虐待のニュースを見ると「ひどい親だ、無責任だ」と一方的に親が悪いと思っていましたが、親にも様々な事情や背景があり加害者である親にも支援が必要であることを知り多角的に見る視点を学びました。

●更生保護制度論

- ・医療観察制度に深く興味が湧きました。少年犯罪を防ぐために大人のすべきことをもっと考えるべきだと痛感しました。

●就労支援サービス論

- ・障がい者の方々の働き方をソーシャル・インクルージョン、多様性など事例を用いて詳しく学ぶことができました。また、考え直すきっかけとなりました。熱い先生で教わることが多かったです。

●社会福祉援助技術演習A・I

- ・人権について、自分が最も優先すべきだと考えていること、自分の価値観に気づいた。また、さまざまな面接技法を知り、それらを使いこなすことができたならソーシャルワーカーとしての信頼度は上がると感じた。しかし、それ以上にクライアントに心から関心を寄せること、理解しようという気持ちで臨むことが最も基本ではないかと感じた。

●社会福祉援助技術演習B・II

- ・今まで何となく使っていた言葉でも意味が曖昧だったり、言葉自体が出てこなかったり、自分の今のレベルがどんなに酷いものだったか見直すことができた。言葉の意味が分かることで、そのシステムなどの内容が理解でき深まるのだと感じた。これからの学習に役立つ授業でした。

●社会福祉援助技術演習C

- ・社会福祉士になった時のことを想像しながら受講しました。グループワークでは様々な意見が出て面白い時間でした。様々な地域の特性を踏まえて話を聞くことができ有意義な時間でした。

●社会福祉援助技術実習指導A

- ・実習に行く事前準備が分かり、今後どのように取り組むべきか理解できました。周りの学生も勉強に対して努力されていることが分かり、励みになりました。

●社会福祉援助技術実習指導B-1 + 演習C-1

- ・事例を考えることが苦手なので、他の方と一緒に考えることで理解が深まった。先生の進め方がよく、楽しく講義を受けることができました。

●社福実習指導B-2

- ・「目的があつての結果」ということを先生がおっしゃっていたので、実習前にもう一度自分の実習に対する目的をしっかりと定めて望もうと思いました。

●社会福祉援助技術実習指導B-3 + 演習C-2

- ・最後のスクーリングとなりましたが、他の学生の方々との情報交換やグループワークを通

じての関係づくり等、非常に有意義なものとなりました。先生の言葉を大切に、これからソーシャルワーカー目指してさらに深く学んでいきたいと思いをします。

●**特講・社会福祉学1（介護保険と社会福祉士の課題）**

- ・介護保険制度そのものより、ソーシャルワークの哲学について考える絶好の機会であった。先生の経験に裏打ちされたソーシャルワークの真髄、特に理論を実践にいかすことは、「自身の実践がどの理論に合致するか、自分の言葉で説明できる事」という言葉に心を強く打たれました。

精神保健福祉士指定科目

●精神医学

- ・医学の薬は現在対症療法でしかなく、薬だけではどうにもならないと思ったので、精神療法を活用していく必要性を感じた。それに伴い、医師だけではない他の職種（PSWなど）の必要性を感じた。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ（精保総論）

- ・様々な事例も聞くことができ、現在問題視されている児童虐待やDV、発達障害などについて、幅広く知ることができました。また、支援をしていく中での自己肯定感のあり方についての必要性も学ぶことができてよかった。専門用語について理解不足であるため事前学習を深めていきたい。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

- ・記録の方法やSST、ケアマネジメントについて、ビデオや事例を聞くことで、より詳しく学ぶことができました。成長期に合わせたメンタルヘルスの講義では、産後うつについての重要性に気付かされ、母親のみならず精神疾患を持つ親に育てられた子どもへの配慮や、家族との繋がりについても深く学ぶことができました。疾患のみならず、人には言えない心の悩みや苦悩をくみ取っていくスキルがこれからの精神保健福祉には必要であると強く感じました。

●精神保健学

- ・各ライフサイクルの段階や支援場面において、福祉職がどのような視点で関わるべきかという講義を聴くことができ、これからの仕事でかかわりを持つ上でのヒントとなりました。医療や教育などの領域の中で、福祉の目を持ち続けることの必要性を感じました。

●精神保健福祉の理論

- ・本人主体が基本であり、本人が何を求めているのか、ニーズがはっきりしないとき、アセスメントできないときなどこちらの思いだけで相手の夢や希望を奪ってはならない。大切なのは主体性であることに気づかされる内容でよかった。

●精神科リハビリテーション学

- ・もしかしたら自分もそして身内にももしかしたらなってしまうかもしれない障害なのではないかと、思っていました。今回の授業を受けもし自分になったら、家族がなったらという視点を持ちたいと考えました。リハビリテーションは回復に向けての手法であり取り組みです。事例やDVDを通して考える機会ができて勉強になりました。

●**精神保健福祉援助演習 A**

- ・グループワークを通して自分の考え方の特徴や別な物事の見方があることに気づかされた。自分の意見を言語化し相手に伝えるスキルを高めていきたいと思った。

●**精神保健福祉援助演習 B**

- ・本人からの聞き取りの重要性を改めて感じた。支援サービス提供を行うに当たり「何の情報が必要なのか」聞き取り前に考える必要があると感じました。

●**精神保健福祉援助演習 B-1 + 実習指導 A-1**

- ・スクールソーシャルワーカーとして経験されている話を聞き、大変参考になった。今後の仕事にもいかすことができました。

●**精神保健福祉援助演習 B-2 + 実習指導 A-2**

- ・勉強を進めるにつれて、いつの間にか制度の枠組みの中で支援を考える癖がついてしまっていたが、本人中心に寄り添う支援の大切さについて再認識することができました。

●**精神保健福祉援助演習 C**

- ・基礎的なソーシャルワークの勉強不足が、今回のスクーリングでわかりました。レポートが可だったので緊張して受講しましたが、先生が分かりやすく丁寧に話していただき理解が進みました。

●**精神保健福祉援助演習 C-1 + 実習指導 B-1**

- ・何度も自己覚知に対して、深く考えさせられた。今後の実習だけでなく私生活においても自己覚知に対して考えていきたいと感じた。

●**精神保健福祉援助演習 C-2 + 実習指導 B-2**

- ・どの仕事でもそうであるが、自分をよく知らないで援助支援はできないものなのだと感じました。相手が人間であるがため抱え込みすぎれば自分がつぶれてしまうし、かといって放置するのも違う。自分をよく知り関わっていくことが大切だと思いました。

心理系専門科目

●心理学概論

- ・錯視、古典的条件づけ、防衛機制、カウンセリングという流れの中で心理学の全体像をうっすらとつかむことができて良かった。心の複雑な機能について知ることができて、勉強を続けていきたいと思いました。

●心理学実験Ⅰ

- ・今回初めてのスクーリング参加でした。オンデマンドよりも講義に臨場感があるため、より集中して講義を受けることができました。また、実験と一緒にやることで、参加している方々と、普段の勉強方法や課題の悩みを相談することができて、とても貴重な時間となりました。

●心理学実験Ⅱ

- ・いつも思うが、普段の何気ない現象もまじめに理論化されていることに驚きます。実験の結果が予想通りになりたくないと思うのに、そのようになることが楽しかった。自分も世に残る実験をしてみたい！と思いました。

●心理学研究法Ⅰ

- ・人の心を数値化することは、それを測定する人と測定される人も人であり、ある一定の基準と区切りをつけるところに難しさがあるのではないだろうか。研究法は、その結果をどういかにするか、人はどう工夫して生きていくのかの指針になればいいのではと考える。

●心理学研究法Ⅱ

- ・ボリュームはあったと思いますが、どれも必要な内容で充実したスクーリングでした。演習で実際にやることにより、自分で考え深められると思いました。とても楽しい感覚になりました。

●社会心理学

- ・社会心理学は、私達の生活と結びついていて、人間の色々な行動にも理由があることが良くわかった。特に援助行動の話で、責任が分散されることがとても興味深かったし、自分の生活でもあるかもしれないと思った。

●家族心理学

- ・精神保健福祉士取得を目指しています。家族全体での問題が精神障害を抱える方には多いと感じられたので、受講しました。家族内のルールに着目すること、コミュニケーションは相互拘束であること、原因の分析をしない援助の進め方など、今までにない発見がありました。面接のロールプレイでは、面接の難しさや場数を踏む大事さを感じました。

●産業心理学

- ・職場でのストレス、生産性と管理、職場集団の問題など、「あんなほど」と感心することが多かったです。20年前に勉強していれば、今の私は全く違う人生を歩んでいたかもしれませぬ。

●人間関係論

- ・知識が武器なる、という先生の言葉に胸を打たれました。今までは、経験だけを積みばどうにかなると思っていましたが、知識があることで経験を納得していかすことができるという点は盲点でした。人間関係は生涯にわたっての課題なので、知識と経験を今後を活用したいです。実験の紹介が多く、様々な心理学についても深まりがありました。

●環境心理学

- ・人が「わかる」(認識としてある)ことと「できる」(行動に移せる)ことの違いを意識し、自分はわかっているのか、わかっているつもりなのか、できているつもりなのか、できているのかを認識することが大切だと改めて感じました。

●生涯発達心理学

- ・その年齢にある人たちの各々の行動や心の在り方が良くわかり、周りの人たち、家族などと照らし合わせて「人っておもしろい」と改めて感じることもできた。また、その年齢ごとの課題を皆乗り越えようとしているんだと思ったら、人が愛おしくさえ感じてきました。

●児童青年心理学

- ・はじめてのスクーリングでした。やはり対面授業は充実感があり、得られるものが大きいです。先生のお話を聞いていると通学生になりたくなりました。モラトリアムの統合は生涯にわたってとても大切だと感じました。自分自身の見直し、振り返りも出来てとても有意義な時間が過ごせました。心理学の奥深さを感じ復習にかなり力を入れなければと思います。

●老年心理学

- ・認知症の人への支援時に、アルツハイマー型と前頭側頭型認知症型の症状を取り上げ、同じ徘徊の様にみえても、その人がかかえているものは違うため、その人に合わせた対応、疾患別ケアという考え方が必要であるということがわかった。

●教育心理学

- ・ただ皆統一した教育をするのではなく、個々の学習段階を理解することが必要だということを知りました。子どもへの教育だけでなく様々なところで活用していきたいです。

●障害児の心理

- ・障害といっても多種類あり、障害をかかえることにより生きにくさを感じている。障害をなくすことは最も良いことであるが、不可能な場合に、まわりのかかわり方で生きにくさが少しでも良くなり、それをもっと多くの人が意識して生活してもらえたら良いと、先生の話から感じた。

●心理アセスメント

- ・心理学をどのように捉えていくかよく理解できました。人間の内面を引き出すのは難しいです。しかし、何かしらのヒントはあるはず。それが言語なのか態度なのか…そこに着目できる技術を身に付けていきたいです。

●臨床心理学

- ・DVDによって実際のアセスメントや面談を観られたことが興味深かった。時間経過とともにクライアント本人の悩みや、問題の抑圧されていたものが表出していく過程や、その方法や技法が具体的によく理解できた。

●心理療法

- ・人間関係を促進するためのグループワークでは、短い時間内で初対面の人をよく知るための工夫がちりばめられていた。講義の外でも応用でき、またクラスメートとも仲良くなれる素敵な時間だった。

●犯罪非行心理学

- ・児童青年期の発達や問題を、家庭裁判所の視点からわかりやすく講義いただき、問題行動の理解や、どのようにして児童青年は悩むのかについての理解が深まった。

●カウセリングⅠ

- ・定義、概念、歴史などをベースにして、知識、技術や課題を話していただいたことで、学術的な理解として頭に入りやすかった。この組み立てがあるとパワーポイント等での資料化がなくても無理なく頭に入ってきます。今まで受講した講義は割と「その逆」のことがあり、自分は今回の方がなじみやすいです。セミナーじゃなく研究という印象で、大学で学んでいるという実感がもてました。

●カウセリングⅡ

- ・歴史的背景や、それぞれの心理学を生んだ人の境遇や思いまでを丁寧に説明していただき、イメージしやすく理解が深まった。認知行動療法の事例に関する講義では、知識や技術も大切であるが、よりよいと思われる認知を示すことができるだけのカウンセラー自身の資質を高める努力がとても必要になると感じた。

●カウセリング演習Ⅰ

- ・グループワークにより、いろいろな気づきがありました。クライアントの訴えたいことが話の奥底にあったときなどは、見逃してしまいました。カウセリングの基本的態度と技法を折り混ぜて、クライアントの気持ちに寄り添うことの難しさを痛感しました。

●カウセリング演習Ⅱ

- ・普段も相談員をしているので、振り返ることが多かった。そして反省しきりです…。「なぜ、あの時あの方はあのような反応をしたのだろうか」と思うことがありましたが、私の言葉や態度がそうさせたのかもしれない、と感じました。

●学習心理学

- ・自分たちの行動は、自分で決めているのか？ 環境に決められているのかもしれない。人それぞれの五感の感じ方の違いの重要性や、認知から行動に至るまでを考えさせられた。

●特講・福祉心理学4（スクールカウセリング）

- ・チーム支援、機能不全に陥らない支援づくりが不登校対策には必要で、日本ではまだまだ行き届いているとはいえないと思いました。

教職系科目・幼保特例講座科目

●特別支援教育支援員概論

- ・特別支援教育支援とは、対象児を支援するだけでなく、自立や社会参加ができるよう卒業後を見据えて、主体的な取組を支援することがとても重要であることがわかった。また対象児と支援員の信頼関係は大切だが依存することはよくなく、支援員が手を出しすぎず、我慢や見守ることが対象児の自立への大きな一歩であることも大切であることがわかった。

●乳児保育

- ・幼稚園では接することのない未満児について、DVD等の映像を通して、具体的に知ることができ勉強になった。保育の難しさ、奥深さ、面白さを改めて感じる機会となりました。

オンデマンド・スクーリング開講科目

●ボランティア論

- ・ボランティアとは、本来どういったことなのかという事が分かりとてもためになりました。そして、ボランティアとNPOの違いも分かり安易に行えることではなく、明確に何をするのか、どこまでできるのかをはっきりとしていけないのだと知ることができました。まだ、ボランティア経験がなく、できそうなことを探し参加していければと思いました。

●統計情報を見る眼

- ・いつも何気なく見ていた統計が実は正しい根拠ではなかったかもしれないことに気づいた。これからは騙されないようにしっかり確認しようと思った。

●法の基礎（日本国憲法を含む）

- ・基礎とは言え法学ということで、受講前は多少抵抗感がありましたが、ユーモアを交えた先生の講義の仕方に引き込まれ、楽しく、わかりやすく受講することができました。今後も、法はその時々状況に合わせ形を変えていくのだろうと思い、ついていけるよう、これからも日々関心を持っていきたいと思えます。

●社会福祉学入門

- ・社会福祉の理念と始まりを学べました。人が環境に慣れていかななくてはならないのではなく、社会や環境をどのように変えていけるのか。この視点を根本に置き、客観的な思考を持つきっかけを掴むことができました。繰り返し教科書やスクーリング資料を読み、今後は細部まで覚えていきます。

●社会福祉原論（職業指導を含む）

- ・とても考えさせられる講義でした。相手の立場に立つこととは？学問とは？そして自分とは？たくさんの参考文献を紹介していただき（どこまで読めるか？） 楽しみです。

●地域福祉論

- ・福祉サービスを利用している人たちが、どれだけ地域社会の一員として、住民とともに活動する場があるのだろうかと考えさせられた。特に障害者に関しては、差別や偏見が少なくないと感じるので、施設従事者や支援者が、家族や地域との架け橋になる役割が重要になると改めて思った。そうなるための学びと実践が必要である。

●社会保障論

- ・生活の中で、社会保障に関わっていたはずだが、深く考える機会があまりなかった。年金について、自分の状態が理解できた。今後の生活について考察する機会を得ることができる講義であった。

●公的扶助論

- ・生活保護のあり方の難しさを改めて考えさせられた。こうあるべき年金制度を見つける事が、どんなに大変なことか、それがまた生活保護への負担になるということも、考えさせられる事となった。

●福祉法学

- ・成年後見制度の概要を知ることができましたが、市民後見をしようと思っても実際にはとてもハードルが高いことが想像できました。

●福祉心理学

- ・未だ不治の病だと思われる認知症が、人とのかかわりや態度において変化する可能性を持っていることを知り、未来に希望が持てた。介護は双方辛く悲しい経験でしかないと思っていたのが、無知からくる偏見だとわかり非常に為になった。

●医学一般

- ・人体の仕組みや構造等はあまりに高性能で難解で、知識が増すごとに謎が深まり知りたい事や理解出来ない事がどんどん増えて、どう勉強して良いかわからないと思っていましたが、スクーリングでポイントを押さえて楽しく簡潔に説明していただいた事で自分なりに勉強を進める事ができました。

●福祉行財政と福祉計画・福祉計画法

- ・様々な計画が作られているが、根拠となる法律や通達に基づくことで、効力を持つのだと分かった。自分の属する地方公共団体の計画に興味関心を持って、実際に確認していきたい。

●障害者福祉論

- ・人は、自分の主観・経験でしか物事を見ることはできないが、少しでも自分のこととして考え支援できるように心がけていきたい。また、ユニバーサル・デザインについてあまり考えたことがなかったが、地域社会・自分の身近に広まっていくと良いと思った。

●保健医療サービス論

- ・医療ソーシャルワーカーは、患者さんが抱える様々な悩みと同時にご家族が抱える悩み、そして医療従事者の間で働く為、幅広い知識が常に求められるのだということを改めて考えることができた。時代とともに、制度は改正を繰り返すため常に新しい制度に目を向け、患者さん及びご家族、そして医療機関で働く医療従事者の方々に伝えていくことが医療ソーシャルワーカーの使命であるとも感じた。

●社会福祉援助技術総論

- ・社会福祉士が知り得ておかなければいけない事が、想像以上に広範囲にわたるのだと知り驚きました。講義を通して、今までは漠然と考えていた社会福祉士ですが、どういった仕事をするのか何を求められているのかを、大枠ではありますが自分なりに具体的にイメージする事ができたように思います。とても有意義な講義を受ける事ができました。ありがとうございました。

●社会福祉援助技術論 A

- ・実務でのご経験をお話くださったので、イメージがしやすかった。自分という人間についてはバイアスだととらえていて、無味無臭無色、空気のような自分を作らなければならないと思っていたけれど、自分というフィルターを生かすことの大切さ、すなわち専門職である自分もこれまで生きてきた自分の世界を尊重されるという考え方にハッとさせられました。空気のような自分を育てることも含めて、自分のいろいろな面を育てていきたいです。

●社会福祉援助技術論 B

- ・現場で今現在、色々活動されている先生のお話を聞いたのは、貴重な体験だったと思います。現代の日本は物質的には恵まれてきていると思っていましたが、母子家庭、貧困家庭も多く存在し、精神的な疾患も様々な形で存在している事がわかりました。先生が仰ったとおり全部を解決するのは無理でも、これから自分が向き合った人位は大切にしていきたいと思いました。

●社会調査の基礎・社会福祉援助技術論 II

- ・主観的ではなく、科学的な根拠に基づいたソーシャルワークの必要性について学ぶことができ、大変参考になりました。ケース記録の重要性を強く感じました。また、一人の利用者の問題が社会全体につながっているかもしれないということを意識して、援助を行っていきたいと思いました。

●福祉経営論・福祉施設管理論

- ・一見すると福祉経営に関係のなさそうな内容が、施設運営上で深くかかわりが出てくることやサービスを利用する人へのケアにもつながっていくということを考えさせられました。

●高齢者福祉論

- ・高齢者に対する支援について、ケアマネジメントの考え方を学び、高齢者以外の支援の方法と通じるものがあるということがわかり、関心が高まりました。

●介護概論

- ・一個人として高齢者や障害者と向き合うことが、施設や病院という組織の中で、多様な価値観を持つ集団の中で、できるのだろうか？強い信念が持てるように、納得のいくまで学びたいと思いました。

●更生保護制度論

- ・裕福でも優秀でも、周りから見れば幸せそうに見える人が犯罪をしてしまうことは、その人の全体的な背景を見ることが大切ということを学んだ。

●就労支援サービス論

- ・就労支援をするには、ただ待っているだけでは見つけることはできず、積極的に開発していかなくてはいけないということがわかり、やはりコミュニケーション能力は欠かせないものであると、実感できるものであった。

●精神保健福祉のサービス・精神保健福祉論

- ・精神障害者を取り巻く歴史、時代に促されて変化していく法律を学べ、さらに先生が精神障害者とともに歩んできたこと、感じたことを垣間見ることができた。私自身を見直すことができ、利用者に対してみる目も少し変化したように感じる。もっとたくさん学びたいと感じました。

●精神保健福祉の制度・精神保健福祉論Ⅲ

- ・まだ記憶に新しい精神障害者が関わった事件や実際に起きた事例等の話も聞くことができたので、とても考えさせられるものがあった。精神障害者の入院形態について、任意入院等それぞれの名称は知っていたが具体的にどのような入院なのかあいまいな状態であったので、今回のスクーリングを受けてとても勉強になった。

●発達障害者の地域支援

- ・発達障害者に限らず、障害者が地域生活を営んでいく上ではいろいろな配慮、いろいろな人々の助けは必要だが、一般の人に比べその配慮が多岐に渡ったり、頻度が多かったりの違いだけで、お互いに地域の一員として認め合い、助け合って生きていくことが必要だと感じた。そのためにはお互いのことを知ることが必要だと、理解することから始まるのだと思う。その上で何ができるのか、どうしていったらいいのかを共に考えること。まずは聴く、その姿勢からだと思える。スクーリングを受け、ソーシャルワークの必要性も痛感し、ますます関心を持つことができた。

●家族法

- ・講義の中で「結婚」についてのテーマが特に響いた。ある程度の社会的地位や金銭面での蓄えが必要であり、また相手方の家族とのコミュニケーション交換など、決して自分だけのイメージで済むほど簡単ではなく、大変なものであると改めて考え、学ぶ機会になった。

●心理学概論

- ・大変わかりやすいご説明でした。今まで心理学の教科書や参考書を読んでも、難しいと感じることが多かったのですが、スクーリングを受講し、とても楽しく理解が深まりました。子育てなど、日常的にイメージしやすい例も多く、日常生活において当てはまることを探しやすくなった気がします。とくに、子どもと一緒にすることはすべての子どもに共通するものであることははっとしました。また、受容と共感については、クライアントの話を理解したことをあえて伝えることで、相談を受けた自分の理解した内容を修正してもら

うことで、クライアント自身の力で課題を整理していただくことが大切だと感じました。ぜひすぐにでも、家庭や仕事にいかしたいと思います。

●心理学研究法 I

- ・心理学の研究法は、とても複雑で、細心の注意を払わなければならないということを考えさせられた。どの研究方法にも長所と短所があって、組み合わせなどすれば工夫はいくらでもできると思い、研究する際のウデの見せ所だと思った。人間の心理は一人ひとり違って複雑で研究することは至難の技を極めるが、心理学が発展していく中で少しずつ研究が重なっているのはとても関心を持って勉強することができた。

●社会心理学

- ・ミルグラムの実験による権威への服従は、実際の縦割り社会における職場の環境をイメージすることができました。また、内集団、外集団についても、福祉現場の仕事において、関係機関との連携のし難さにはこうした現象が生じているのかと理解を深めることができました。

●生涯発達心理学

- ・以前より人の発言や、思わず出た言葉がなぜこの言葉として表れたのか、気になっていました。それは、その人が今まで生きてきた歴史の中での経験により重視する視点や思いがあってこそ、数ある表現の中から、今この言葉が自然に表現されているのではないかと考えていました。このスクーリングを受講することで、この思いは間違いではなく、むしろそうした視点で人を見つけて向き合うことの大切さを学びました。自分の自身にもなり、かつ生まれてから死ぬまで発達し続ける人の魅力にさらに興味が沸きました。

●人間関係論

- ・こんな考え方があったんだと、日常の生活の見える色が違ってみるくらいに、知識が加わったので、変わることができたと思います。この学問はもう少しやりたいと思いました。

●老年心理学

- ・認知症の病因によって、症状だけではなく言動などにも大きな違いがあることについて、例を挙げてお話いただいた事で思考や推測の幅が広がったように思えました。また、利用者の方々の個々の違いについても深く考えることができました。また、とてもわかりやすい説明や言葉で講義を進めていただけたことで、理解を深めることができました。ありがとうございました。

●ライフサイクルと福祉心理学

- ・西洋と東洋の違い、日本の中でも歴史や時代背景の変化での違いで人々のライフサイクル

や価値観、自我の形成が違う事を分かりやすく講義して下さったと思います。自分の現在の生き様、形容や、周りの人々と照らし合わせながら学習でき、非常に興味深く学習できました。

●心理アセスメント

- ・具体的な事例をもとにアセスメントについて説明していただいたので、イメージを持ちやすかった。以前は、心理学に対し当たり前のことを理屈っぽく言う学問だといった思いも持っていた。しかし、心理アセスメントによって、これからどのようなかわり方をすれば、もっと良い生き方ができるか予測できることがわかり、アセスメントについてもっと学びたいと思えるようになった。

●認知心理学

- ・有意味学習の重要性について知ることができた点はよかった。ただ、機械的暗記学習にも有効な場合があると思うので、その二つをどのように組み合わせることが、真の学習にとって有用になっていくか、これから考えていきたい。

●学習心理学

- ・他の科目と内容が共通するものでも、有名な研究者の教科書には載っていない裏話を聴いて、その人物像に興味を持ったので関係図書を読んでみたくなりました。
また、子どもたちにより効果的に学習させるためのコツのようなものを裏付けている理論があることを知りました。

●環境心理学

- ・環境心理学で扱う分野がどのようなものかよくわからなかったが、受講することによって幅広い分野にわたっていることを知り興味がさらにわいた。
以前受講した時に紹介された実験や分野がでてきて、それを思い出せただけでも勉強した気になった。

●障害児の心理

- ・今回のテーマは仕事の上でも習得したいと思っていたことなので、大変興味を持って取り組みました。子どもを支援する上で、子どもを理解すること、そこから障壁となっている障害を理解すること、そして忍耐と希望を失わないこと、心に響きました。希望を失いたくないと常に思っているのですが、どうしても自分の力量がないのか等失うことも現実には多々あります。自分を信じるためにも、目線を変える、知識を持つ、目の前を信じる、この繰り返しを人（子ども）を支援、育てるには重要なことと感じています。今後の私の取り組みに生かせる、ととても有意義な時間となりました。また、自分に

とって疑問を感じたことにも、違う目線から考えることも大切さも改めて感じました。
ありがとうございました。

●特講・福祉心理学4（スクール・カウンセリング）

- ・現実に行われているスクールカウンセリングを例示して講義されているので、臨場感や具体性あって、非常に有意義な学習でありました。

●特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）

- ・仕事上でも個人的人間関係でも連携や協働がスムーズにできるように、コミュニティ心理学の視点を持つことは重要だと思いました。さっそく、日頃の活動の中に取り入れていきたいです。